

景況レポート

(1月分・情報連絡員80名)

業況DI値2ヶ月連続の上昇

【概況(全体)】

1月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが13.8%(前回調査11.3%)、「悪化」が28.8%(同28.8%)で、業界全体のDI値は-15.0となり、前月調査と比較し2.5ポイント上回った。全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、製造業については全国平均を下回っているものの、業況悪化割合の減少により非製造業の数値が好転したことから全国及び東北・北海道ブロックを上回る推移となった。

【業界別の状況】

製造業では鉄鋼・金属、非製造業では一部の卸売業及び建設業で業況の好転割合を維持していることに加え、小売業及びサービス業等で悪化割合が減少したことで景況感の回復が見られた。

なお、全体の景況感、寒波と雪害に伴う物流・商流の混乱が全国的に発生し、生鮮品を中心とする価格の高騰や需給不調も一層拡大しており、消費動向が大きく下押しされていることに加えて、引き続き雇用難や製造コストの上昇にも拍車がかかっているため、製造・非製造ともに経営環境は安定性を欠いている状況にある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-15.0	-16.8	-23.0
製 造 業	-15.6	-11.6	-22.1
非製造業	-14.6	-20.7	-23.6

＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 くもり △10以上 △30超 10未満 △10未満 雷雨 △30以下

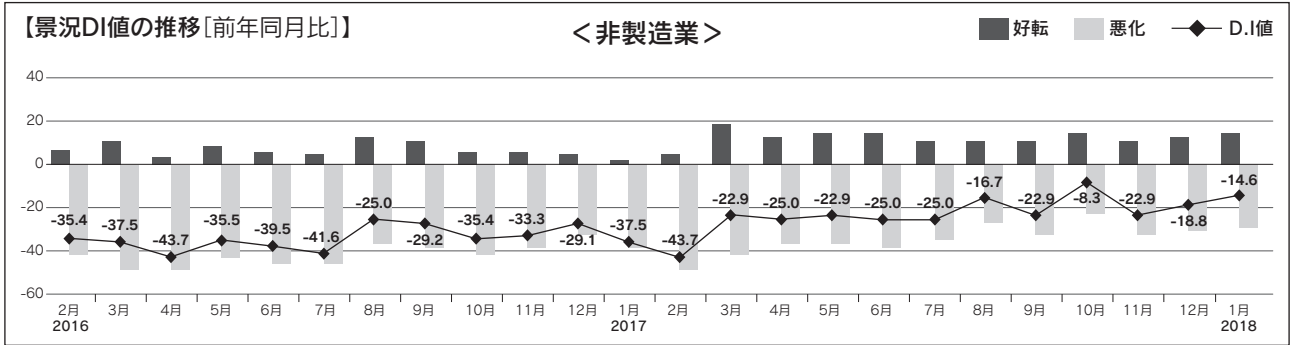
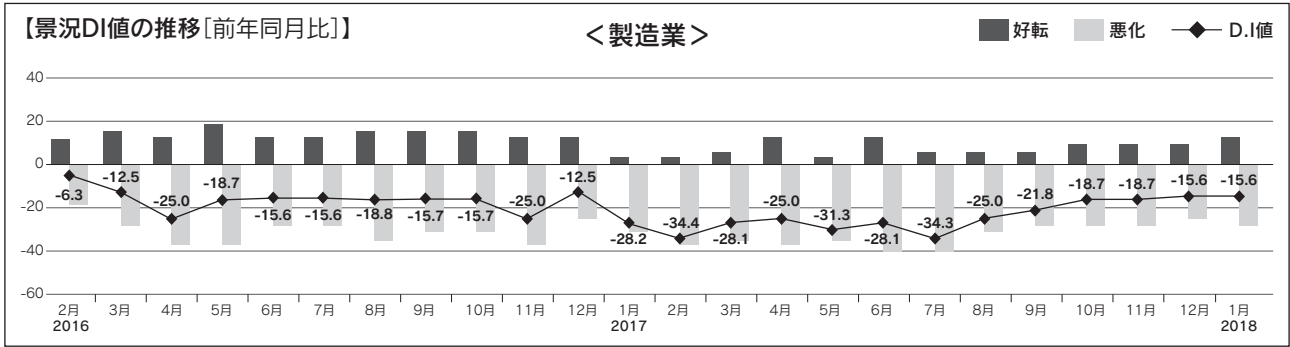
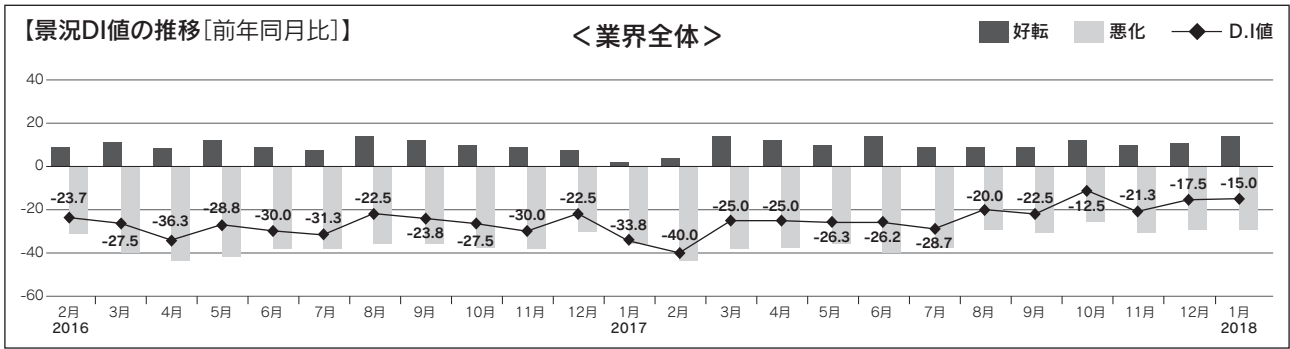
【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	ほぼ、前年並みで推移したが若干売上は下がった。気温が低く、鍋物などでの需要は増えるはずだが野菜が高く予想より伸びなかった。
食 料 品 (製 麺)	1月は中旬頃より降雪量が増え、輸送等に経費が掛かり増した。また、石油製品の値上がりでコスト増となっている。
織 維 工 業 (織 維)	紳士服は前年同月比では横ばいで推移。婦人服については定番・別注ともに数量は増えてきたが、人員の減少により生産数が目標を下回り売上減となった。人材確保に加え、効率のよい生産工程を考えたい。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	関東圏の大雪が物流にも影響し、配送が追いつかず売上は前年同月比で減少した。また、1月の記録的冷え込みにより、製造機械の一部が凍結し、稼働時間の減少で生産量が落ち込んだ。
木材・木製品 (素材生産)	一般製材用原木の生産量については、降雪の影響で減少した。消費は製材品の需用が安定している状況である。合板用原木は、原木の生産が降雪の関係で減少しており原木在庫は減少している。
木材・木製品 (プレカット)	1月は前年並みの加工数量を確保した、新工法の出荷も無事完了できた。2月は介護老人保健施設、畜舎等の大型案件も受注しており大幅な増加が期待できる。
印 刷	印刷用紙を始め値上げの動きが活発であるが、需要が増えず安値受注も後を絶たない。需要の冷え込みは東北地区をみても悪化傾向にあり、景気回復を実感するに至っていない。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	1月の出荷数量は、前年比99.1%での推移、4月～1月累計で91.9%と厳しい数字となった。今年度の需要想定を610,000m ³ としたが、最終的に今年度は想定比90.2%前後と予想される。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	今年に入って見積依頼が著しく減少しており、新規物件の受注は大変厳しい状況である。受注済物件は各社とも2～3月頃までは確保しており、多少の格差は見られるものの稼働率も80～90%程度で推移していると思われる。
その他製造業 (漆 器)	昨年より新商品の蓋付腕が少しずつ動き出したので、今後の動向に期待したい。蒔絵や沈金の体験教室に海外の観光客を多数受け入れることが出来たが、売上には直接結びつかなかった。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果) 1月の売上は、前年同月比100.9%で推移した。葉物野菜の高騰が続いており、学校給食にも影響している。全国的にも不作で、今冬の厳しい寒さが生育に追い打ちをかけた。価格が下がる見通しはまだない模様である。

卸売業 (自動車中古部品) 鉄価格は1月に入り、1,500円/トンの上昇が2回あり販売価格は好調に推移しているが、使用済自動車の在庫が不足しており仕入価格が上昇している。

小売業 (共同店舗) 悪天候による集客への影響と鮮魚、冷凍品、青果物の仕入れ値の高騰が続いている。

小売業 (石油) ガソリンの小売価格は、1ℓあたり142円80銭で前月比3円20銭の値上がり、軽油は1ℓあたり122円20銭で前月比3円の値上がりとなった。配達灯油18ℓは1,607円で前月比68円値を上げた。1月中旬までは原油調達コストの増加、下旬には原油価格、卸価格とも横ばいの推移となった。

商店街 食料品、家電販売は前年並みの売上、身の回り品、酒類販売については前年同月を下回った。(秋田市)

クレジットカードの利用者が多くなっているとの声がよく聞かれ、決済日までの資金繰りに影響を及ぼしている。(大館市)

サービス業 (タクシー) 地域によっては天候と積雪量に大きく左右されたようで、県北・県南地区での運行回数が前年同月より伸びている。

建設業 (一般建築) 昨年7月、8月の豪雨災害復旧工事が発注され、また、除排雪作業の発注が重なり、一時的であるが多忙な状態が続いている。

建設業 (管工事) 1月の組合取扱資材の売上高は、前年同月比でほぼ同額であった。寒波による凍結解氷処理が月末に集中した。(秋田市)

運輸業 (トラック) この4ヶ月間軽油単価が上昇しており、厳しい状況にある。1月は10日まで稼働がなく、中旬になり荷動きがあった。雪のため輸送の遅れが生じている。(中央地区)